

HIV感染の判明時期が妊娠後期・分娩後であった症例に関する検討

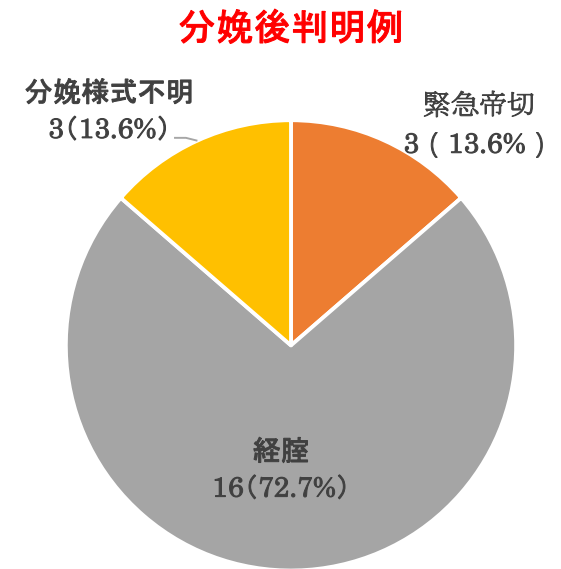
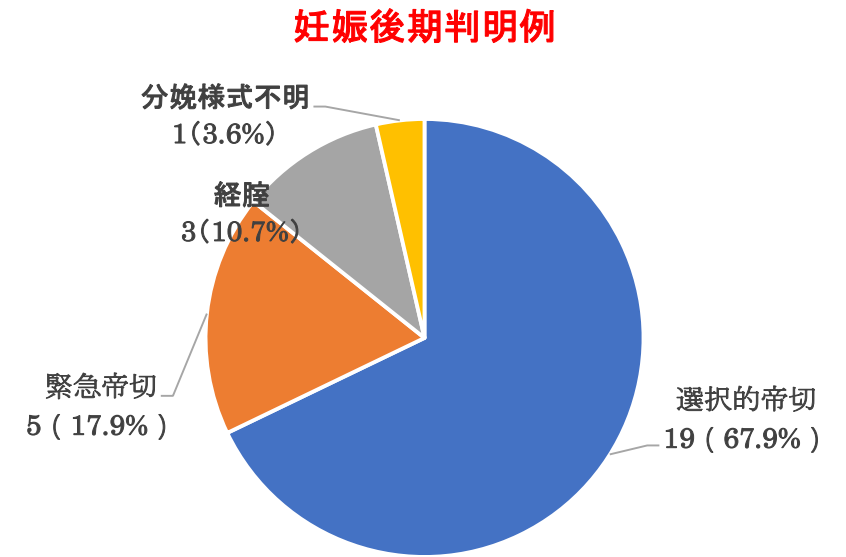
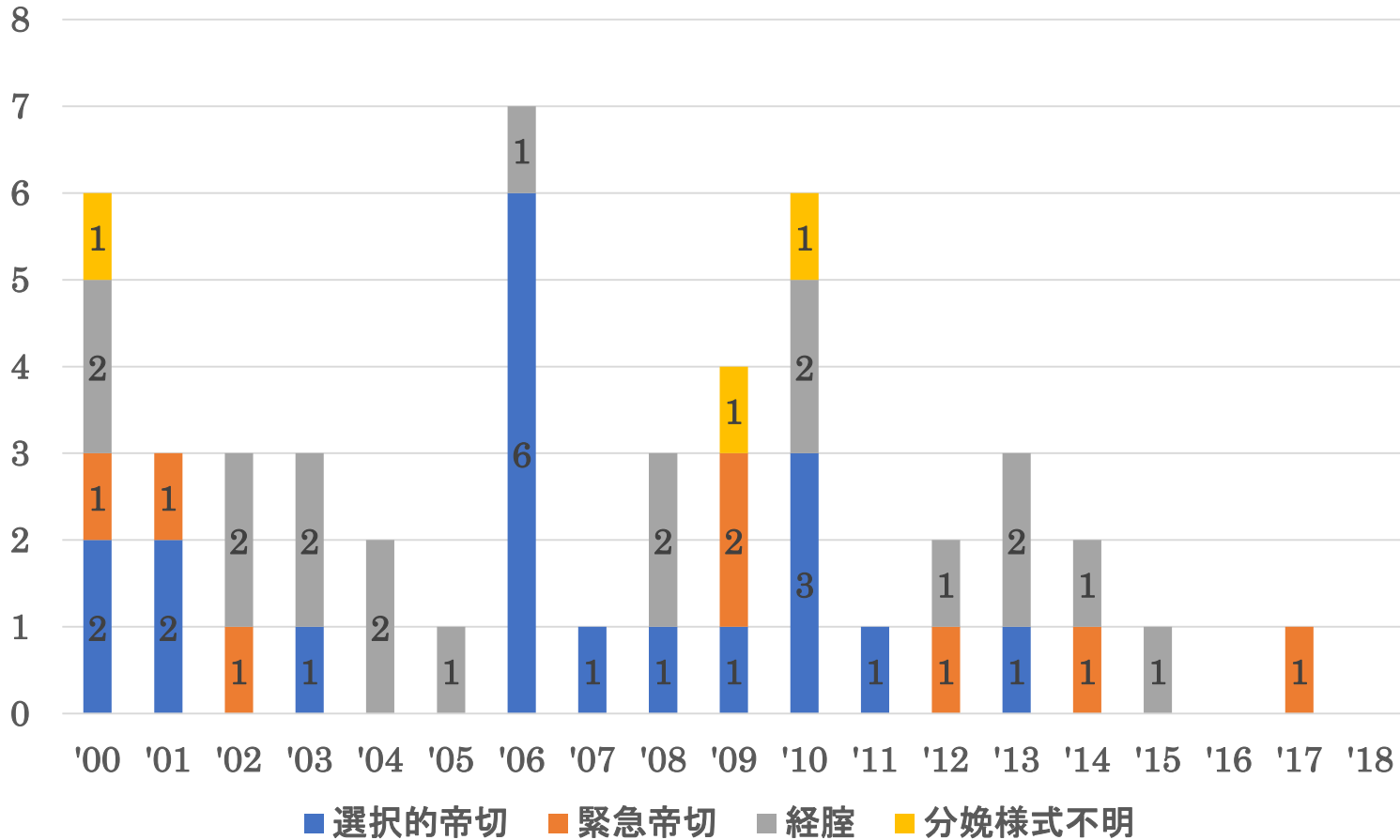
奈良県立医科大学附属病院 産婦人科¹⁾、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班²⁾

竹田善紀^{1) 2)}、杉浦 敦²⁾、山中彰一郎^{1) 2)}、市田宏司²⁾、中西美紗緒²⁾、箕浦茂樹²⁾、松田秀雄²⁾、高野政志²⁾、桃原祥人²⁾、小林裕幸²⁾、佐久本薫²⁾、太田 寛²⁾、石橋理子²⁾、藤田 綾²⁾、高橋尚子²⁾、吉野直人²⁾、山田里佳²⁾、定月みゆき²⁾、田中瑞恵²⁾、大津 洋²⁾、外川正生²⁾、喜多恒和²⁾



分娩管理状況

転帰年別分娩様式

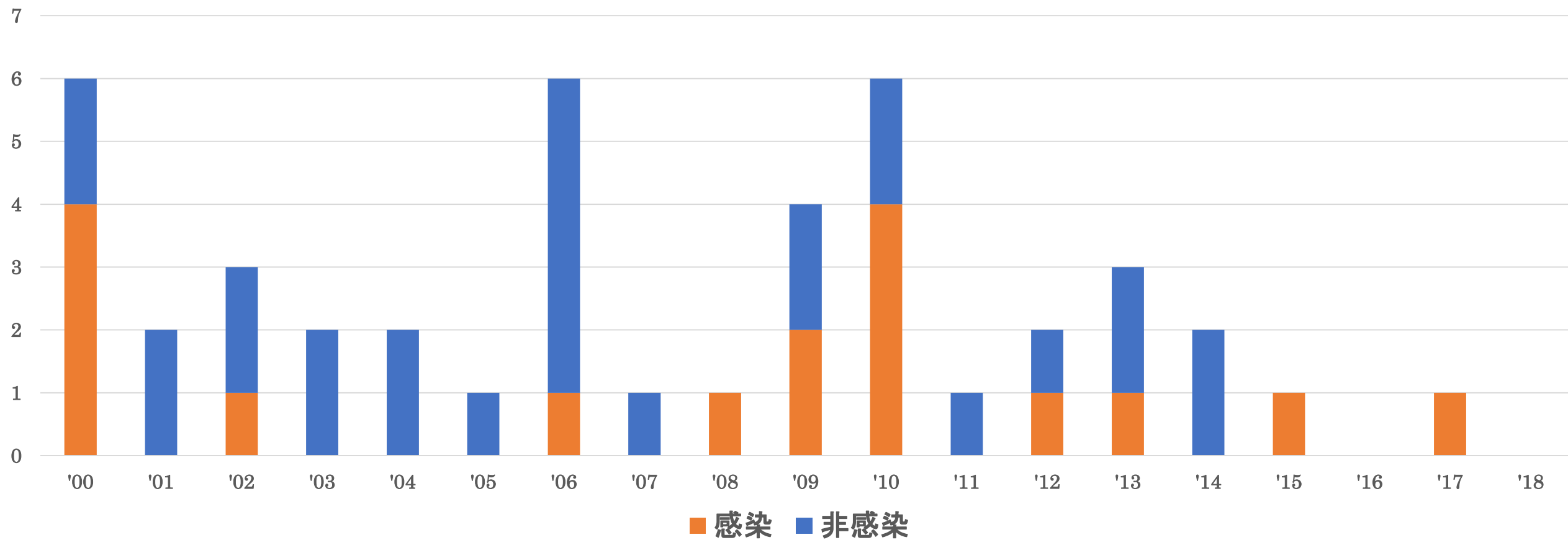


HIV感染妊娠全体では経膈分娩例は5%未満となっているが、
妊娠後期・分娩後判明例では**経膈分娩が38.0%**を占める

The background features several concentric circles of varying radii, some solid and some dashed, creating a ripple effect. A large blue callout box is centered on the page, containing the text '母子感染率'.

母子感染率

妊娠後期判明・分娩後判明例における母子感染数推移



2000年以降の母子感染全例が妊娠後期判明・分娩後判明例である。

【結論】

近年の母子感染は妊娠後期感染判明例と分娩後判明例からのみ生じており、特に**分娩後判明例からは高率に母子感染が生じている**。また**妊娠初期スクリーニング検査陰性例からの母子感染**が増加している。

今後の母子感染予防策として、妊娠中でも常にHIV感染が生じ得ることを**社会的に啓発**することが最も重要と思われる。しかし全例に複数回のHIVスクリーニング検査を施行することは非現実的である。ハイリスク例を抽出し**妊娠中の複数回検査を施行**することや**パートナーに対してのスクリーニング検査**施行を検討することが、今後の母子感染予防策として必要と思われる。